

13

プリントアウトした請求票は、所蔵部署階のカウンターにお持ちください

2011年01月13日 11:52:14

2011年01月13日 11:52:15

入館証番号:

[Empty box for library card number]

入館証番号:

[Empty box for library card number]

Call Slip

<請求票>

Call Slip

2220
34
32

<請求票>(控)

資料名: 支那の国民性

巻次:

著者名: 大谷光瑞//述

出版者: 大乘社東京支部 頁数: 126p 地

大きさ: 19cm 出版年: 1932

書名
資料名: 支那の国民性
巻次:
著者名: 大谷光瑞//述
出版者: 大乘社東京支部
出版年: 1932
大きさ: 19cm
頁数: 126p 地図

所蔵館: 中央
所蔵部署: 1階資料お渡し・返却カウンタ

所蔵館: 中央
所蔵部署: 1階資料お渡し・返却カウンタ
配置場所: 1/66A 中)B1書庫A
資料ID: 1122209957

配置場所: 1/66A 中)B1書庫A
資料ID: 1122209957

新東自入社	力	事
↓		
新東自入社	請求	報告
MB1 マイロ	B1 アルファベット	原紙 縮刷
MB2 マイロ	B2 洋	中 朝
行 1F	B1	B2
多 兎 青	1F	B1 B2

請求記号
2220
34
32

目次 1~4
本文 1~19
88~106

扶漢の旗幟で成る中華民國

支那の國民性

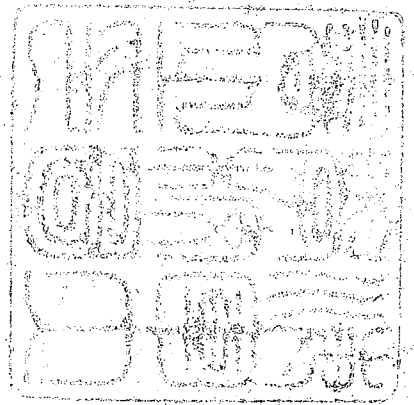
自分の民族でない滿洲人の支配を甘じて受けたのでございます。ところが清朝の力が弱りだすと、扶漢滅滿の旗標を建て、トクレーン革命をやりました。ソレで現在の中華民國が出来た譯です。乾隆帝の時代には支那人は決して、扶漢滅滿を云ひません。『沒法子』でした。相手が弱りだすと、例の自尊心が出て参ります。これで良く御解りの事と思ひます。昨今やかまひ、支那事變を、正しく認識するには、この二ツの定規を皆さんお用ひにならねばいけません。この二ツの定規で御批判になれば、千歳の暗室が二遍に明るくなつた様な具合です。判つきりお解りになります。

お約束のキツチリ零時でございますから是で止めます。(拍手)

昭和六年十月廿五日京都に於て

終

支那歴史年代表



支那の國民性

目次

演題の選定……………一

支那の國民は何處から出て來たか……………四

四千年來の支那の特徴『無爲而化』……………七

自ら文明人と信ずるも一ツの思想……………一七

非常に偉かつた禹帝の治水……………二〇

禹帝が定めた文明非文明の五服……………二三

夷、狄、蠻に見る支那の特異性……………二八

支那の國民性
大谷光瑞

秦の始皇帝と漢楚の争……………三八

高祖が布いた二千年前の自治制……………四三

匈奴防禦と失業兵救済の長城……………四八

なか／＼強かつた匈奴……………五三

三國時代の鮮卑とシヤホン玉獨立……………五七

外國人が約一千年支那を支配……………六二

十八歳で天下取りの唐の太宗……………六九

ウイグル族とキタン族……………七三

元の傑人成吉思汗の大支那統一……………七八

竊業を成した成吉思大可汗の孫……………八五

支那人始めて支那を統一……………八八

支那とは地理的に何處を指すか……………九二

支那に一番いゝのは放任政治……………九六

始皇帝以後半數は外國人が支配……………一〇一

支那變正解に二つの定規……………一〇四

支那歷代年表

支那歷代興亡一覽表

支那邊疆沿革圖

其一 春秋時代

其二 秦統一時代

其三 漢末三國時代

其四 六朝時代

目次

支那の國民性

大谷光瑞述

演題の選定

何か現在の時局ときばうに關したお話をするやうに、と云ふ事ことでございませぬ、——此幹事かんじの方々から「當節たうせつの事であるから、支那の國民性ちんあにんせいの話をして呉れ」——此の滿蒙まんもうの時局ときばうに關しましては、幾多いくたの専門せんもんの人から、諸君しよくんも皆も聞きになつて居る譯わけでございませぬから、是はもう別段べつだん申上げんでもよろしうございませぬ。ところが此の支那の國民性ちんあにんせいになりませぬと、今迄いままでにお話おはなしがあつたこともございませぬ。

演題の選定

目次終

其五	唐	時	代
其六	北宋	南宋	時代
其七	宋	金	對立時代
其八	元	時	代
其九	明	時	代
其十	清	時	代

目次

せう。お話をかつたこともございませうかと存じますから、是が丁度適當だらうと考へまして、幹事の諸君と御相談をして斯う云ふことに決めました。

私は、自分の事を申し上げますとおかしうございませうけれども、七八つの幼年の時から只今五十五歳迄の間、漢籍ばかりで育つた人間でございませう。日本人であり乍ら國文は極めて不得手でございませう。日本歴史も一應は心得て居りますけれども、細密には心得て居りませぬ。之に反しまして、支那の歴史になりませうれば、三皇五帝より中華民国に至るまで悉く諳んじて居ります。それから漢文を読みまするとは、日本文を読みますると同一、若しくはより以上に容易に讀むことが出来ませう。只今の如き冗漫な日本文になりませうと、通讀をしまするに時間がかつて間違ふ。漢文の方がはつきりしますから、短い時間で讀むことが出来ませう。精神は完全な日本國の國民でありますけれども、自

分の學問は支那人同様の學問をもつて居る體でございませう。

其の上、支那の國內は三十年來、到る處を歩いて居ります。最近は十四五年に亘つて大部分支那に居住を致して居ります。それでございませうから、支那の國民性のお話を致しまするのは、私に取りましては極めて容易なことで、京都に居る、京都生輝の人士が我が西京の町の中の機嫌をお話しするやうなものでございませうから、極めて容易なこととでございませう。私に取りましては、洵に有難い樂な講演を仰せ付かりましたのでございませうから、是から樂々と申し上げませう。(笑聲)

支那の國民は何處から出て来たか

支那の國民は何處から出て来たか

人類學の範圍の支那の國民と云ふものは、全體どこから出て来たものかと云ふこと
を、一番に考へなければなりません。是は人類學、及び、有史以前の人類學より
まだ古い進化學でございませぬ。即ち歴史學以前の人類學……斯う云ふやうに
學者が種々な説を立てられます。ア是はさう云ふ専門の學者にお任せを申上
げたらよろしうございませぬ。私共は支那の歴史より以前の事は、淺學でありま
すから講演しません。のみならず、研究を致しましても趣味の程度に止まりま
して實用になりませぬ。それで今日は申上げませぬ。
先づ黄河の流域からかけまして今日の張家口の近邊迄の、山西、河南、湖北、
此の間に支那の民族と云ふものが、今を去ること約四千年、乃至五千年位の以

支那民族
の本據

前から、そこにかたまつたものと……斯う考へて頂けば餘り間違がなからうと
思つて居ります。

三皇五帝

此の民族で、三皇五帝とか云つて、神さんとも、人間とも、動物ともつかんや
うなことが歴史に書いてございませぬ。是はアどんなものやら、私其の時から
今日まで生きて居りましたら、はつきりしたことを申上げられませぬけれども、
其の時分、私生れて居りませぬから、餘りはつきりしたことは申上げられませ
ん。やはり人間のやうに眼あり、鼻あり、手あり、足ある動物であつたらうと
思ひませぬ。之を三皇、五帝といひますから、斯う縦にすぢを書くと、順序よくつ
ないであるやうでございませぬけれども、實際はさうぢやございませぬ。起きた
り寝たり、寝たり起きたり、もう度々戦さをやつて居ります。支那の民族の歴史
から戦争と云ふものを取去つてしまつたら、歴史と云ふものはない。三皇

支那の歴史
は戦争

支那の國民は何處から出て来たか

五帝の昔から戦さばかりやつて居ります國民でございます。今日も相變らずやつて居ります。是もやはり一つの支那の大なる國民性と思つて頂けばよろしうございます。

四千年來の支那の特徵『無爲而化』

先づ其の中で稍々、確かに分つて參りましたのが堯や舜と云ふ世の中。是は

なんでも、四千年とか三千五百年とか種々説がございます。四千年か三千五百年

か、兎に角、日本紀元年、神武天皇が橿原に都を奠められますより、遙か以

前の事と考へて頂けばよろしうございます。大分古い、徵が生えて其の徵も大

抵消えた位の話、其の頃からやはりやつて居ります。其の時から他の民族にな

い、支那民族の特徵と云ふものを現はして居ります。此の特徵は今日の中華民

國に至るまで、終始一貫して四千年五千年續いて居る特徵。是は日本には日本

民族の特徵でございます。支那には支那民族の特徵がございます。印度。ヨ

ロッパ、いづれも皆特徵と云ふものはある。其の支那の特徵と云ふものは何で

四千年來の支那の特徵『無爲而化』

あるか、と申しますれば、無爲にして化す。

無爲而化

是が支那民族の特徴でございます。『無爲にして化す』何にもせずに文化が行届くと云ふことでございます。化すると云ふことは化け物になると云ふことでございませぬ。文化の化の字であつて、狐や狸が化けると云ふ意味ではございませぬ。

無爲にして化すると云ふことは、どう云ふことかと申しますると、『しようど云ふことをしないで、それが自ら出来て來るのだ。斯うしよう、あ、しようど云ふ。そこに考があり動作があると云ふものを伴うたのではない。自然に天理にかならたのだ』と斯う支那の民族は言つて居ります。ところが此の先生方の考へます天理と云ふのは、どう云ふ尺か、どう云ふメートルか、私さう云ふ度量

衡は研究しませんから分りませぬ。分りませぬが先生方の謂ふ度量衡があるやうです。それに一致して業をせなひのが無爲にして化する、と云ふことだございませぬ。是はどうも支那人がさう云ふ解をして居りますから、多分この解でよろしいだらうと思つて、私もそのまゝ従つて居ります。

其の一例を申し上げますれば、堯舜と云ふ堯帝の時に『全體、私はこれで一國を統一して居るのであるが、治まつて居るのだから、治まつて居ないのだから』と云ふので、大變堯帝心配をした。『堯帝と云ふと、聖人と云ひますが、餘り偉い聖人ではない。自分が治めて居つて、治まつて居るか治まつて居ないか分らん、凡くらではないか』と思召すか知れん、……が、その頃は新聞と云ふものはございませぬ。それからJOKと云ふやうな便利なものもございませぬ。それで堯帝の所に行つたことのない田舎の者は、ボグイ堯帝が居るか居せん。

ないか分りやませぬ。堯帝の心配したのも。尤もな事だせう。まだ心配するだけ聖人でせう。愚物だつたら心配もしません。心配しただけ聖人であるのでせう。今日はそらに澤山心配して居る人がありますけれども、聖人のうちに這入れん。是は時代が違ふからの話で、本來はやはり其の當時に於て聖人だけが心配して呉れた。それで自分も平民のやうな風をして、——皇帝のやうな風をして行つては目立つていかんと云ふので、平民を装うて行つた。只今の便衣隊になつて出て行つた譯です。

衣裳の便

所が其の時は、皇帝も、便衣隊の平民も、餘り違つた風はして居らぬ。假りに違つた風はして居りまして、皇帝だから頭の上に鳥の尻尾ぐらゐ着けて居つたかも知れません……。便衣隊になつてクロ／＼歩いて行つた。今から云つて見れば百姓がある。なる程堯帝の時は大分文化が開けて居りますから、

物を作らなければ食へない時分でございます。其の昔は、まあ猿の親類見たやうなもので、木の實でも取つて居りましたか、野鼠見たやうに天然に生えた粟の實でも食つて居つたのかも知れません。堯帝の時分には立派な人民になつて居りますから、耕さなければ食へません。それから水も昔は河に行つて飲んで居つたのであります。けれども其の時分になりまして、作物に雨だけでは足りません。支那民族の本據は今申上げる黄河の流域、及び張家口の近邊まででございますから、夏は相當雨がございますけれども、冬は雨がございません。井戸を鑿つて居ります。それを灌漑用水にして居りましたし、それから又自分等も飲料水にして居つたのでせう……

そこへ行つて聞いて見る、『どうだ、此の頃の皇帝の政は？』『皇帝！そんなものほありやしない。私等はお日さんが出れば野に行き、お日さんが這入れ

耕して食む井を鑿む

ば自分の家に歸る。』斯う云ふ(時計を出し)便利のよいものは其の時にはありませぬ。時計と云ふものがないから、なるほどお日さんを標準にして行かねばならぬ。雨降りばかりだと閉口します。けれども餘り雨の降らない所だから、お日さんを標準に行つたら、大抵間違ひはございませぬ。夏は長く餘計勉強せねばならぬだけのこと。それから井戸を鑿れば水が出る。それを飲んで居る。田を耕して麥を植ゑ、粟を植ゑて、それを成熟した時に食べる。田を耕して食ひ、井戸を鑿つて飲ひ、『帝力我に於て何ぞあらん』、『皇帝……そんなものは何も私は關係ないぞ、居つたつて居らんのだつて同じ事、私に關係はない。私の所では田を耕して食ふ、井戸を鑿つて飲ひ。私の仕事には皇帝があらうがなからうが、そんなものに私は何にも關係ない、『帝の徳我に何かあらん』『是は、これであるほど私の政が行届いた』と言つてひどく喜んだ。世話を焼いてやら

帝力我に於て何ぞあらん

んでも、向ふ勝手に食つて居るから洵に行届いたものです。(笑聲)
 京都市でも盗人が居るから警察の必要がある。盗人がなかつたら警察の必要はない。謙讓の美德を具へて、『向ふから来た』と云つて遠慮して居つたら交通整理の必要はない。京都に居る人間や、餘所から来た人間に不心得な者があつて、物を盗むから警察があつて引つ摺まへねばならぬことになるし、なるべく先へ行つてやらうと云つて、ガチャ／＼するから交通整理も要るし、京都市と云ふやうなものも必要がありませう。『京都市は京都市で斯う云ふことをせねばならぬ』と云つて、皆んなお金を持つて來て市役所の前へトソと置いたら、土岐(京都市長)さん餘程樂だらうと思ひます。けれども、何とかかんと云つて、税を出さぬものだから、調べて『お前何ぼう出せ』とやかましく言はねばならぬ。それで土岐さんも心配せねばならぬ。吾々もどこもか迷惑である。

警察人と警

これらを考へて見たらなる程、堯帝が喜んだのは尤もだと思ひます。私が堯帝であつても、『こいつは世話が要らんわ……』と思つて喜びます。是が『無爲にして化する』と云ふ標本と、私は見て居ります。

それから尙ほ其の後、是はずつとそれより後、孔子聖人の生れたより少し前位の——後でございませう。管子と謂ひます「管仲」……これは逆も偉い經濟學者か大政治家で、餘り言ふと叱られますけれども、若槻さんとか井上さんよりドツと伎倆の上の人、……斯う云ふ人が今日日本に居つて呉れたらよい。それはもう二千年前死んだ。地下を掘りおこしても骨もありやしませんから幸抱して居ります（笑聲）。けれども實は管仲の方が遙かに上、……其の管仲の言つたところがありますが、是は管子を讀みまして抜書をして置きました。一寸あれの方が……申すとナニになるか知りませんが、實際只今の高官方より少し上

管仲は大政治家

のやうです。（笑聲）

無爲者帝

『無爲の者は帝たり、一無爲の者は皇帝の値打があるのだ』と斯う言ひます。

それから

爲而無以爲者王

『爲して爲すなき者は王たり、爲すことは爲す。爲さん方が一番偉いけれども、それよりは爲す、爲して而して爲したと云はず、また示さぬやうな爲し方をする者が第二等だ』と斯う言ひます。是はやはり最初の『無爲にして化する』と云ふことの要領がズツと引いて來て居ります。爲ると云つて爲るやうに見せぬ仕方を選んければならぬ。見せる仕方ではいかん。シタツと云ふことはいけません。日本は是が違ひます。是は昔から國民性が違ひますから、是が直ちに

爲而無以爲者王

日本に適合するとは申しませんが、今日は支那の話をして居りますから、支那ではこれがよい。エラクサ／＼法律を拵へるのは、支那には昔から餘り流行らぬ。あゝ云ふものは悪人保護のもので、善人は喜ばぬものであつた。無爲のものが皇帝……それから無爲ではない無爲である、爲であるけれども、爲の狀態が無爲のやうになるのが第二等ぢや。逆も味ひのある面白いことを言つたものです。……是が支那の國民性の第一でございます。是は決して四千年昔の話とぞ聞きになつてはいけません。今日返すつと續いて來て居ります。

自ら文明人と信するもう一つの思想

もう一つ今度は反對に——反對ではないですけれども、少し角度の九十度位——異つて居ります國民性を申し上げます。此の二つの國民性で支那の民族をつくつて來るのです。もう一つ角度の變つて居ります分は、是は支那人自ら『文明人』だと深く信じて居る、此の觀念……所謂、化すといふ、化して居る、『自分は文化のものである』と斯う云ふ信念……此の信念は牢平として支那人にぬけないのです。

今申上げた三皇五帝、その堯舜の次に出て參りました人に禹と云ふ人が居ります。是はえらい先生でございます。此の禹と云ふ人は……堯舜といひますけれども、私は、堯舜は餘り偉い者でないと思つて居ります。あれは何ぞ昔は偉い

自ら文明
人なりとの
信念

禹帝

自から文明人と信するもう一つの思想

者を拵へぬと、どうもお辭儀が出来ぬ。便利が悪いので、孔子聖人が——孔子は偉い人である、聖人——あの孔子聖人が堯帝・舜帝のまつい所は皆んな除つて、えらい所だけ残した。だから連も偉いやうに見えます。けれどもどうもそれ程偉くないやうです。吾々でも悪い所を皆除つてよい所を残せば聖人になります。出來損ひを皆とつたらよくありません。商賈して居る。損した所もある、儲けた所もある。損した所を除つたら皆んな百萬長者になる。儲ける方も多いが、損する方がモツと多かつたら貧乏する。さう云ふのと同じこと。堯帝の悪い所を捨て、善い所を残したら聖人になります。堯舜は大した人でないと思ひますが、禹と云ふ人は餘程偉い人です。是は餘程偉いやうです。是には私もお頭を下げて居ります。

其の當時のことを申上げますと、楊子江以北と云ふものは堯帝の時から舜

缺點を除
人は皆聖

長江の水

帝の時にかけりまして、非常に長時間の間、大水害を受けて居ります。本年（昭和六年）楊子江の水害を私は上海に居りまして調べて參りました。随分廣い水害。舊日本、青森縣から鹿児島縣迄全部水害にかつた様なものです。人口七千萬から七千五百萬人ぐらゐに頭から水を掛けた。丁度舊日本だけが水の中に這入つたことになりました。先づ百年間にない水害であつた。然るに此の堯舜の時の水害は、それよりもマダマダ大きな水害でございます、西洋の歴史に本當か嘘か知りませんが『アの洪水があつた』と云ふことが書いてございます。それらの類でございます。連もえらい水害でございます。ずっと河北から楊子江、山のてつ邊は水がかかりませんが、下はもうすつかりかかつてしまつた。其の水害には誰がやつても何ともかんとも出來なかつたのです。

百年間
なる水害

自から文明人と信するも一つの思想

支那人始めて支那を統一

茲で又始めて支那人が天下を統一したのです。この支那人が統一しましたの

が、明と云ふ國號、朱と云ふ苗字の人です。所が支那の歴史を讀みますと、明

朝が統一したと言つて居ますけれども、『元滅ぶ』と書いてあるのは嘘です。私

は儒者が嫌ひと云ふのはこれです。元はちよつとも滅んで居りません。元が

長城の北へいつ込んだ。北元、南元と見たら分りよい。今迄の領分、南の半

分だけが獨立した。北の半分が、長城の北に追込まれたと云ふだけで、ちよつ

とも滅びて居りません。元が滅びたのはずつと南部でございませす。明の朱と云

ふ太祖皇帝に追はれて、長城まで壓迫せられた。やはり長城が境……。それか

ら少し出て居りますけれども、大體長城迄を境と致します。ですから『元滅ぶ』

明の天下
統一す

元は滅び
分る北に

長城が境

と書いてあるのは嘘です。日本の、物を知らぬ歴史家は、その儒者の受賣をし

て、元は滅びたと思つて居る。あれは長城より南にあつた元が、北へ追込まれ

たのです。まあ是が二千二十八年から二千三百四年まで二百七十六年間……。

是だけの間、支那人が長城以南を支配して居つた。

その次に出て來た奴が、どう云ふ奴かと云ふと。——是はもう此處等へ來る

とあなた方御存知ですが——清です。是は昔のジュツチンと同じ滿洲人です。

是が二千二百七十六年から二千五百七十二年迄……。

それからその次は、今中華民國と名付ける、何處に主權があるか分らんガチ

ヤ／＼した國になつたのです。是は統一して居りませんから、誰が主權か分り

ません。ガチヤ／＼シヤボン玉民國です。民國は併し、是は支那人です。清國

は支那人ではございません。女真族です。是は大抵今の方で、中學生位の方

支那人始めて支那を統一

は別ですけれども、さうでない方のお生れになつたのは、清朝が支配して居つた時です。私共は清朝の西太后とか云ふ婆さんが、えらい頑張つて居る時分、『どんな顔をして居るだらう』と西太后に拜謁を願出た。ちよつとお婆さんの顔を見て來ました。やつぱり目が二つ鼻が眞中に一つあつて、『角が三本出て居る。』そんなことはございませぬ。清が二百九十五年間。この年限はしつばは分つて居ります。しつばは分つて居りますけれども、初めは分りませぬ。何處を第一年にするか。是は學者の見様によつて、五年六年どうでもなります。私共滿洲で獨立を宣言した時を第一年と見ますから。斯う云ふ數字を出します。是で大體支那民族が支那を支配し、支那民族にあらざるものが支那を支配した、大體の徑路を申し上げます。今日中華民國と稱して居る支那民族……。それを漢民族でない民族が、支配して居つた期間と徑路とは、大體いさ申し上げ

ましたことで、お解りになつたことと存じます。

支那とは地理的にどこを指すか

今度は少し話の筋を違へます。『それでは支那とは、地理的に一體どこを指すのであるか。』支那々々といつても、この點がハッキリとお解りになつて居らぬ。すると、いろ／＼の疑問や誤解が起つて來ます。前に歴史的に見ましたのを、今度は地理的に申上げます。

大體、學者はいろ／＼な説を擧げてゐるが、『支那民族といふ漢人種は、河北省を中心に黄河の岸に住つて居つた。』と見てたいして誤りはありません。古い昔のことは別として、秦の始皇帝の統一からこつち、渭水と黄河の間は完全に漢民族の勢力範圍です。漢の時代になりますと、東は支那東海、北は長城、南は廣東の海岸までだん／＼勢力が及んで居ります。ところが西と來たら境界

地理的に見た支那

河中心の漢人種

線は頗るアズイです。漢民族の勢力の強い期間だけは突張り出るが、微弱になるべく、こういふ有様でございませう。

『甘肅は漢の時代には、大抵陽關、玉門關あたりが支那民族と、支那民族以外

漢の時代は玉門關

の奴との境界接觸點』とみて差支でございませう。青海——古い時代には西の海（西海）となつてゐます。この青海や、四川省も岷嶺から西は支那民族でな

いものゝものとなつてます。廣西は或る時は支那民族の領分、或る時は南蠻人の領分、たゞ新疆だけが比較的長い間、——前と後の漢時代の大部分、——約

百五十年、唐代の凡そ百年間が支那民族の領分。アトは殆ど支那民族でないものゝ領分でございませう。

只今やかましい滿蒙……。滿洲にしても蒙古にしても、唐の時代に、それも極く僅かの間だけ、安東大統護といふ役所を置いた。それも完全に領分にして

支那とは地理的にどこを指すか

治めたといふのではない。遠くから、まあエラツトにニラんで居つたといふ位のものです。領分といふ點からなら、滿洲は高麗に屬す可きものです。吉林の東はボツカイ、蒙古はキータン、黒龍江はヤ、コシイですが、何れにしても支那民族の領分でなかつたことだけは確かです。明の時代になつて、ヤツと山海關までを持つて居ります。

明の次ぎの清朝……之が現在の中華民國と領分にしては似たりよつたり。

この清は勿論支那民族ではございませぬ。滿洲人です。滿漢と言ひまして、漢

滿とは云ひませぬ。滿洲人が支那を征服し、滿洲の領分を今の中華民國の大き

さに擴げたのです。この滿洲人の擴げた、清朝の領土を革命この方、ソツクリ

そのまゝ支那民族が相續したといふことになつてます。それから今日の中華民國

國の境界といふものが出来たのです。ところが、歴史と地理の學問の上からは

清朝は支那民族に支

歴史と地理上の滿洲

どう論じてみても、滿蒙は「支那」のうちには入らぬ。政治上、外交上の區別や修辭は、いまの議論から嚴重に分けて置きます。只今申上げる事は純粹の歴史と地理からの御話してございます。吾々多少とも支那の地理と歴史を心得て居るものは、いつでもChinaのうちを、滿蒙をグチ込みません。China, Man-
churia and Mongolia と、こゝろ一々面倒でも分けて書いて居ります。こゝろ書くのが正しいのです。こゝろ書かぬやうでは、學問に對してまことに相濟まぬ次第でございます。

清朝が没落してから、滿洲はつい先年まで張作霖……、最近の事變まで張學良が滿洲の支配者です。之は皆様、よく御承知の筈……。この張家と言ふのは滿洲人ではございませぬ。支那人です。そして滿洲の實權者になつて居つたのです。

張作霖は滿洲人に

支那とは地理的にどこを指すか

支那に一番いゝのは放任政治

そこでまた前に戻ります。無爲にして化するといふことをやつたものがずつと長く續く。すると、ボンナに『イヤ野蠻人ぢや、戎狄ぢや、夷蠻ぢや』と言つて馬鹿にして居つた奴でもかまひません。自分が支配を受けて、無爲にして化するの制度にしてくれたら、『誠に有難うございます』と言つて、隨つて來る奴です。租税をとられると云ふことが、一番嫌ひです。租税さへとつてくれなんだら、是が徳政、堯舜の政……。支那で政をすると云ふことは語り、『租税をひつけるのがいかん。無爲にして化する』と云ふのは、ほつて置けと云ふこと。税を取ると云ふのは、ほつて置くのではありません。有爲にして化すると云ふ事です。

支那の國民性論
を再論す租税を取
る第一政治

税を取らずにはほつて置く。また殿の奴があつても、ちよつとも警察に尻尾を持つて行かぬ。日本では『全體警察は何をして居る』。盗人が這入つても無理な理窟を言ひます。が支那人はそんなことは言ひません。盗人が來た『戸締り』が悪かつた。』と云ふだけで、警察に持つては行きません。『警察の費用を出せ』。それはいけません。『費用まで出して、盗人の番をする奴を頼むのはかなはん。』と斯う言ふ。所がこの味ひが分らなければ、支那の政治は出來ません。成るべく税を取らぬやうに、成るべくかまはずに置く、成るべくほつて置くのが一番宜しい。その代り向ふの支那人が水害に遭つて、この頃のやうに舊日本の殆ど全部が水に浸かつて、七千萬人の中三千万人は正しく水害に罹つて居る。その中二千萬人以上はもう食へません。それは食へますまい。夏の作物は皆流された。冬作を蒔く地面がございませぬ。慈姑は出來るかも知らんが、慈姑の種もありや支那に一番いゝのは放任政治

自
治
放
任

しません。それですから食ふものはありません。それから各國から救恤金を送る。日本からも送つた。所が支那がいらん見察を張つて、貰つて置けばよいものを返した。こつちは返して貰つて有難いと思はぬ代りに、向ふはひどく困つた。そこが今いふ無爲にして化する所の理由。水害を蒙つて居る奴と、上の奴とは人が別でございませぬ。だから自分だけ威張つてポソと返した。水害がドウなつてもかまひませぬ。支那の方では水害の見舞に寄つた金を、上海で排日資金に使つて居ります。水害にかゝつたものは不幸ですが、上海はこの水害に罹つては居りませぬ。水害には他の者が罹つて居る。他人が罹つて居るのを、何もこつちが知つたことではないと、かう云ふ譯です。誠にこの邊簡單によく分つて居ります。人の世話をせねばならぬなら、その範圍を孰れに定めるかこれは餘程研究を要する。『それなら一ツかまはんがよい。ほつて置いたらよい。』とい

水書見舞
金排日資
金となる

譯で極めて容易です。

三千萬の救濟を受けるものゝ中、本當に食ふのに困る者が三分ノ一ある。毎日一萬二萬つゝ死んで行つて居るのです。著物も排日の御蔭で、日本の綿布が這入りませぬから著る著物があります。救濟を受けねばならぬやうなものは金がないから、食ふことは出来ませぬ。食ふものはない、金は無い、著る著物は無い。楊子江岸には日本と同じ位の寒さが來ます。病氣やら凍え死する者が一千萬位あるだらうと思ひます。もう少し多く上るかも知れませぬ。大體一千萬位はこの冬が越し兼ねる。私は斯う云ふ具合に計算をして居ります。私の計算は餘程控へ目の計算でございませぬ。人によると、もう少し餘計に計算して居ります。三千萬人皆死にはしませぬ。人間愈々死なねばならぬとなると、勇氣を出しますから、……大抵共產黨になつて、盗人になるだらうと思つて居ります。

死よりも
盗

金花し衣に
難災者に

支那の共産黨は多
く盜賊の共

支那の國民性

支那の共産黨と云ふものは、主義もへチャも何にもない。泥棒團、盜賊團が共産黨と名づける。共産黨と云ふ方が何か格が上つたやうな氣になるのでせう。それで支那の共産黨とは盜賊のこと。之に大抵残り二千萬が加はるものと計算して居ります。或は逆に、二千萬死んで一千萬残るかも知れません。アその位の割合のものでございませう。

始皇帝以後半數は外國人が支配

最後に申し上げますのは、秦の始皇帝から今日に至ります迄、——秦の始皇帝から以前は別として——支那が統一せられて今日に至る迄の割合を申し上げます。日本曆四百十五年から本年の二千五百九十一年、是迄の間でございませう。是の間が二千百七十六年あるのです。この中で半分以上、支那民族にあらざるものが支那を支配して居つた。年限は千五十六年、半分以上支那民族にあらざる奴が、支那を支配して居つた。それから千百十一年が支那人が半分、若しくは全部を支配して居つた。歴史は斯くの如く行つて居ります。この數字は私が作つた數字ではございませぬ。歴史が拵へた數字です。さうしますと、秦の始皇帝から今日に至る迄の、二千百七十六年の半

半は外國
人に支配
さる

數は、支那は外國人に支配されて居つた。是は一ツあなた方の頭に入れて貰はねばならぬ。それですから『支那と云ふ所は、どんな所だ』と云ふと、『どんなものでも支配出来る所だ。』この頃大馬鹿な奴が居つて、『どうも支那のやうな大きなものは、ハリ支那人でなければ支配が出来ぬ。日本人等の手には逆もそんなものはあふものでありません。』と申します。私は別段支那を支配してやろうとも、やらんとも考へて居りませんが、學問はそんなやうな具合に言つて居ります。是は學問です。行政の實際問題ではございませぬ。間違はぬやうに聞いて下さい。『日本人等はとてもあんな大國は支配出来ぬ。』と今日寄つてお出の方の中にも、さう云ふ不見の方があるかも知れませんが、よく言つて置かねばなりません。さう云ふ人は、日本でも日本を支配することは出来ぬ人で、さう云ふ人の所へは滅多に大命も降つて來なければ、大臣の候補者になること

とも出来ぬ人です。どうもさう云ふ詰らんことを言ふ人は、識者は決して相手にしません。この歴史がチヤンと證明して居ります。外國人が半分支那を支配して居る。支那を支配するには、さつき申し上げました通り、支那の國民性が何處にあるかと云ふことの分つた者がよいのです。無爲なる者は帝たり、爲して爲すなき者は王たり。』で支那人とも、外國人とも、イギリス人とも、アメリカ人とも書いてありやしません。無爲なる者が行つて行政をすれば、皇帝の資格がある。爲して爲すなき者が行政をしたら王者の資格がある。

支那事變正解に二つの定規

其處で、支那の國民性の根本な點に就いて申し上げます。支那の國民性とは無爲にして化すると云ふ事と、それに自分を一番偉い者にして、他の者をダシ／＼野蠻人見た様に考へる自尊心と、この二ツからなると言ふ事はお解りだらうと思ひます。しかし、かう申し上げると或は皆さんが、幾らかの疑問を起されるかも知れません。御承知の……自分の體面と云ふか、面目と云ふか、非常に自尊心の強いのが支那民族です。それに、ドウして先き程から詳しく申し上げた、アノ自己にあらざる民族の支配を甘んじて受けて居つたか、と云ふ事です。此の點に就いて、最後の結論を兼ねて一つ申し上げます。

無爲而化
と自尊心

一體、無爲にして化すと云ふ事は、積極的には、自治です。『放つといて吳

れ。』と云ふ事になります。しかし消極的に、裏返して考へて見ますと、『自然に

ソツなつた事は、止むを得ん』と云ふ語になるのです。別の言葉で申し上げますれば、相手が弱ければ、例の自尊心が出て、威張り散らす。反對に、相手が強

ければ、へタバツてしまふ。支那の俗語に、——自分等がいつも支那人から聞

く事ですが——、没法子（マインツ）と云ふ言葉がございます。

日本語で云へば『仕様がな、致し方がない。』ひつかしく云へば『手段方法が盡きた。』と云ふ意味です。この言葉は、支那人の天性を如實に示すものです。

この『没法子』の俗語と、前申し上げた『無爲にして化する』と云ふ事を兩方照し合して御考へになればよいのです。先き程申し上げました、一見矛盾に見

仕様がな
い没法子

前清時代の乾隆皇帝の時代には、支那民族は、例の『没法子』をやつてます。